

ビッグ・クエスチョン

校長 五十嵐 圭一

「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉どおり、朝晩の涼しさに秋の気配を感じる季節となりました。9月13日（金）の文化祭には、多数の保護者・地域の皆様に来校いただき、ありがとうございました。今年の文化祭も、桜木中学校の良き伝統を引き継ぎ、生徒の笑顔と輝きが溢れる素晴らしいものとなりました。生徒の皆さん、本当によく頑張りました。

さて、読書の秋にちなんで一冊の本を紹介したいと思います。

題名は「ビッグ・クエスチョン」、サブタイトルは、～人類の難問に答えよう～です。著者は、車いすの天才、世界で最も優れた科学者といわれるスティーブン・ホーキング博士（1942～2018）です。



本は、人類がまだ解き明かしていない究極の問い（ビッグ・クエスチョン）に博士が答える形で構成されています。『宇宙はどのように始まったのか？』『宇宙には人間のほかにも知的生命体が存在するのか？』『ブラックホールの内部には何があるのか？』『タイムトラベルは可能なのか？』『人工知能（AI）は人間より賢くなるのか？』など、まさに究極の問いであり、どれも大変興味深い内容です。そして最後のビッグ・クエスチョンが

『より良い未来のために何ができるか？』です。博士はその中で「～今の若い人たちには、どんな未来が待っているのだろうか？確信を持って言えるのは、これまでのどの世代にもまして、今の若い人たちの未来は、科学とテクノロジーに依存するだろうということだ。科学は、かつてない形で日々の暮らしの一部になるだろうから、今の若い人たちは、これまでのどの世代よりも科学を知らなければならない。～」と記しています。確かに現実を目を向けてみると、例えば、自動車は、自動運転どころか空飛ぶ自動車の開発も進んでいるとの情報もあり、博士が言う科学とテクノロジーは想像を超えて急速に進歩していくのは間違いなさそうです。

日本の秋は、読書の秋をはじめ芸術の秋、スポーツの秋、学問の秋などと言われるように、とても魅力的、活動的な季節です。これは、高温多湿の夏から解放された喜びを肌で感じ、さまざまな活動に没頭する意欲が生まれるためではないかと思います。生徒の皆さんも、今年の秋、何か興味のあることに没頭してみてはどうですか。

陸上部を皮切りに、運動部活動のさいたま市新人体育大会が、市内各地で順次始まっています。各部活動とも2年生を中心に、新チームで初の公式戦となります。健闘を祈りたいと思います。